

在京花巻人

発行 在京花巻人会
連絡事務所

東京都中央区東日本橋
3-5-9 市川ビル3階
電話 03-6661-1925



花巻市長 上田 東一



ふるさとから謹んで新春のお慶びを申し上げます。

在京花巻人会の皆様には、日頃より格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年新型コロナウイルス感染症の影響が続いておりましたが、7月に開催されました在京花巻人のつどいに参加して、改めて皆様のふるさと花巻への想いを強く感じました。また、10月には、3年ぶりに首都圏において花巻の物産展を開催したところ、多くの会員の皆様が応援に駆けつけて

くださり、花巻市のPRにお力添えをいただきましたことに心から感謝を申し上げます。

昨年は、各地域のまつりが感染防止対策を徹底して3年ぶりに開催されました。いずれも規模を縮小しての開催となりましたが、特に花巻まつりは花巻開町430周年という節目の年であり、記念事業として花巻開町400年祭記念山車の修繕や花巻まつりカレンダーの作製などを実施いたしました。

このほか、お盆に行われた大迫あんどんまつり、南部風流山車を運行した石鳥谷まつり、約300年の歴史を誇る土沢まつりが地域の方々のご尽力によって開催され、花巻が誇る伝統芸能の保存や継承に大いに役立つものと考えております

し、祭り期間中は、街を歩く市民の皆様、特に子供たちの笑顔が見られ、気持ちが良い限りでした。今年は、ふるさとツアーの皆様にも花巻のまつりに触れていただき、交流できることを期待するものであります。

少子高齢化が進む中、花巻市では移住希望者への情報発信の強化や母子の心身の健康サポートなど定住の促進や子育て支援に取り組んでおります。このほか、新花巻図書館の整備やJR花巻駅橋上化・東西自由通路整備等につきましても、広くご意見をいただきながら検討し、中心市街地の活性化に努めてまいりま



年頭所感

在京花巻人会

会長 瀬川 紘一



明けましておめでとうございます。

一昨年は、新型コロナウイルスで新年を祝つ気持ちになれないと書きました。今年もロシアのウクライナ侵攻で痛ましいウクライナの姿に接し、世界中に被害が及んでいる状況では、新年を寿ぐという心境にはなれないところが正直なところ。新年に当たり、ひたすら平和と穏やかな日々が来ることを祈るばかりです。

それにしても、21世紀にこのような戦争が起きるとは、人類は進歩していかないのかと嘆きたくもなりません。ただ一方で、ウクライナ侵攻はグローバルゼーションの時代における世界と日本のあり

方を考える機会を与えてくれているようにも思います。

そこで言及したいのが、1993年に「文明の衝突」で冷戦後は文明間の戦争となると書いた米国の政治学者のサミュエル・ハンティントンと、1992年に「歴史の終わり」で冷戦終結について自由民主主義の優位性を書いた彼の教え子のフランシス・フクヤマです。両者には批判もありますが、ウクライナ侵攻は開戦の動機がどうであれ文化戦争の側面を持つていますし、自由民主主義が疎かにされることの恐しさも実証されつつあり、両者とも正しかったように思います。

さて、ハンティントンは世界の8つの文明に日本を入れていますが、日本がユニークな文化国家であるという指摘は重要です。何故なら、自由と平等を目指す民主主義と経済的不平等が不可避な資本主義との矛盾に折り合いをつけられるとす

れば、それは文明(広範な文化)の持つ力しかないと思われるからです。一方、フクヤマは最近のインタビュでウクライナ侵攻に言及し、問われているのは民主主義そのものではなく我々であり、私達自身が民主主義を守る鍵を握っている、と述べています。

日本固有の文化をどう活かすのか、民主主義をどう育み守るのか、この二つがグローバルゼーションの時代を生き抜く私達の課題だと思えます。そして、日本の文化も民主主義も地方が担い育んでいることを忘れてはならないと思えます。

令和5年度

「第37回在京花巻人のつどい」のお知らせ

日時：令和5年7月8日(土) 11:30~14:30
会場：東京ガーデンパレス
住所：東京都文京区湯島1-7-5
電話：03-3813-6211
アクセス：JR御茶ノ水駅 聖橋口

会員の活動報告コーナー

アリオ川口店で花巻市フェア(物産展)開催

副会長 高橋 良光
 昨年の10月1日付けの会報(67号)に同封した花巻フェアの案内通り10月22日(土)、23日(日)の2日間、埼玉県川口市のイトーヨーカ堂アリオ川口店で花巻フェア(産直物産展)が行われました。川口市は荒川を境として東京都に接している市で人口60万人の人々が生活しています。アリオ川口店は川口駅から8分の近くに在り、広大な広場(ザッポロビール工場の跡地)の一部にあるショッピングモールで館内には



90以上の専門店、シネマ館などが入っていて、その1階のセンターコートでの開催でした。並べられた主な品物はりんご、米、野菜、白金豚、漬物等多くの商品が有り、沢山のお客が来店されていて賑やかでした。

このフェアの為に花巻から20人以上のスタッフが来ていて、花巻市がこのアリオ店への力の入れ方が大きいと思います。イベントは花巻から参加した鹿踊りで、2日間5回の演舞の披露が行われました。太鼓の音が響き渡ると一段と客が多くなりスマホで写真を撮る人も多かったです。と同時に鹿踊りを観ていると私はいつも花巻を思う気持ちが高くなって来ます。

23日の日曜日には上田市長も上京され今回のフェアの主旨等を話され、又商品のPRもして、会場を盛り上げていました。

2日間とも盛況で予想以上の販売でスタッフの方々も喜んでいただけました。これからもう

の様な催事に積極的に出席し花巻を盛り上げて行きたいと思う一日でした。

都庁と銀河プラザで「花巻観光物産展」開催

昨年の9/28から10/4まで都庁の全国観光PRコーナーで「いわて花巻観光物産展」が、続いて10/5から10/8まで銀座の「いわて銀河プラザ」で「花巻物産展」が開催されました。

都庁の全国観光PRコーナーでの花巻の観光物産展の開催は今回が初めてのこと。都庁の第一本庁1階南側にあるコーナーにはイベントポスターが掲示され、コーナーの正面のスクリーンには、花巻の観光PR映像が放映されていました。特産品は大人気の「アンパン」やテレビで紹介されて品薄となった「つゆ」、お馴染みの「ワイン」などが並べられていました。

観光PR映像はクオリティーが高く、美しい映像が花巻の魅力を十分に伝えていました。白金豚のハンバーグを購入し夕食に食べましたが、銀河プラザで買った前沢牛の



ハンバーグより数段美味しいのにびっくり、花巻の物産品の美味しさを改めて認識しました。ただ、観光協会の小田島さんによると運送の問題もあるようですが、もう少し品物が豊富にあつたら良かったのではないかと感じました。

「いわて銀河プラザ」の物産展には初日の10/5に買い物に出かけましたが、こちらも品数が少なく、買い物に限られてしまうのが残念でした。ただ、初日ということもあり、又、都庁から続く長丁場の物産展となりましたので物産品が十分に揃わなかったのだろうと思います。

両イベントに立ち会われた市の観光課や観光協会の方々には本当にご苦労様でした。(編集部)

岩手県連の秋季日赤献血街頭支援活動に参加

去る11月6日、J R池袋駅東口中州広場で実施された恒例の岩手県人連合会の献血活動に会から3名参加し献血を呼びかけました。

春と秋の年2回実施されているこの活動は、秋は宮古・釜石地域と中部(花巻市・北上市)と胆江(奥州市や胆沢・前沢・金ヶ崎など)地域のふるさと会が担当しています。今回は、総勢約20名が集まり行き交う人々に献血の声掛けをしました。

新型コロナウイルス感染が始まって以降、献血による血液確保が困難になり輸血用血液が不足していることもあり、今回も日本赤十字社から大きな期待が寄せられました。献血可能年齢は200mlの場合は16歳、64歳、400mlの場合は男性が17歳以上、女性が18歳以上で体重が50kg以上となります。輸血用生血液は長期保存出来ないため、医療機関に安定的に血液を供給するためには、献血活動は不可欠のことです。12時から献血支援活

動がスタート、日曜で池袋駅から出て行く人々からの献血はなかなか盛りませんが、2時過ぎからは池袋駅に向かう人々の中から多くの献血者が集まり、16時の活動終了時には合計で55名を超える献血者を迎えることが出来ました。輸血用血液不足がニュースなどで伝わっており、それが献血に協力したい方が多かったですに繋がったようです。活動参加者は献血の成果が上がったことに満足げでした。(編集部)



照井春男監事・佐々木健一理事

在京石鳥谷町人会に参加して

理事 島山 真
 11月6日(日)に上野精養軒で行われた在京石鳥谷町人会に出席しました。会場に入った途端その場の熱気に圧倒されました。約140名の方々が参加されたこの

とでした。

開会の挨拶に続いて物故会員への黙とうがあり、石鳥谷をこよなく愛した故人に対しての思いに敬意を払い、校長在任時の東日本大震災の黙とうを思い出しました。

次に高橋会長の挨拶があり、三年ぶりに開催された石鳥谷町人会への思いが深く感じられました。続いて花巻市からわざわざ来られた八重樫副市長と藤原市議会議長の挨拶があり、懐かしい花巻に触れた感じがしました。

総会は短時間の中に終了し、皆さんが待ち望んでいた親睦交流会に移りました。花巻人会の瀬川会長が挨拶と乾杯の音頭をとりましたが、石鳥谷町人会の交流会は県内でも屈指の和やかさと楽しい会だと話され会の盛り



上がりの予感を感じさせました。乾杯の後、すぐにアトラクションが始まりました。最初に新堀ふるさとさんさ会の皆様の「さんさ踊り」が舞台上披露され、太鼓と掛け声、踊りに圧倒される思いで

昔盛岡で見た「さんさ踊り」の熱気を思い出しました。次に、フラダンスと歌謡の披露があり、石鳥谷出身の歌手、「こころ妃富美」さんの熱唱に会場は一段と盛り上がりました。最後に抽選会があり、参会者一人一人に抽選が当たるといふ心づく

しで私の手土産の袋の中には石鳥谷産のお米や日本酒、手ぬぐい、抽選で当たった「黄金餅」のお菓子等たくさん頂きとても良い気分でご帰場を後にしました。

在京石鳥谷町人会の開催まで、高橋会長をはじめ幹事の方々が一方ならぬ苦勞をされ当日に至ったことと思います。私は、初めてこの会に参加させてもらいました。とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。改めて、石鳥谷町人会の皆様のご縁と人と人とのつながりを大切にしたいと思いと伝統を感じさせても

らいました。心より感謝申し上げます。

在京東和町友会の集いに参加して

理事 菊池 美津子

去る11月13日(日)、御茶ノ水のガーデンパレスにおいて「第42回在京東和町友会の集い」が開催され参加してきました。

11時30分に鎌田節郎副会長の司会でスタート、初めに蟹澤政志会長から3年ぶりに集いが開催されたという事で気合の入った歓迎の挨拶がありました。引き続き行われた総会では平靖雄幹事長から議事の説明がありました。細かい活動や会計の報告は一切割愛し、すっきりとした簡潔な総会でした。

来賓挨拶は市長代理の東和総合支所長の菊池郁也様、市議会副議長の内館桂様で二人から東和町の近況報告がありました。特に内館副議長は東和町田瀬の出身だけあって東和町の晩秋の様子なども話され印象的でした。

会が始まり、最初は東京二子流鬼剣舞の演舞、総勢12名の踊り手と4名のお囃子が見事な演舞を披露してくれました。又、

女性有志によるフラダンスは、楽しい中に真剣さも感じられ、踊り手の皆さんのフラダンス愛が伝わって来ました。更に「ふるさとは今も変わらず」を参加者全員で合唱、飛び入りで「北国の春」を唄う方も出て、楽しい交流会となりました。

最後は花巻農業協同組合の小原卓志常務理事から中締めがあり14時30分にお開きとなりました。蟹澤会長の明るく楽しいお人柄が集い全体に表れており、心から楽しむことが出来ました。この度は参加させて頂き本当に有難うございました。



及川慎さん作曲の「賢治の詩による合唱曲」演奏会で披露

演奏会で披露

去年10月9日、及川慎さんが常任指揮者を務める青梅市民合唱団の第55回定期演奏会が福生市民会館大ホールで開催され、及川さんが花巻の「賢治の里で賢治をつたう」会の為に作曲した合唱曲20曲の内7曲が披露されました。

及川さんは、17年か18年前から月一度「賢治の里で賢治をつたう」会の合唱指導のために花巻に通っているとのことですが、その間賢治の詩に作曲した合唱曲を書き溜めておられたようです。今回は、3部構成の第1部で「原体剣舞連」「種山ヶ原」「きみにならびて野にたてば」「上伊手剣舞連」「林と思想」「雪峡」「こぶしの咲き」の7曲が披露されました。

7曲は組曲のように変化に富んでおり、それぞれの崇高な曲調は胸に沁みるものがあり、又、私達にとっては懐かしさを感じるものでもありました。中ほどに「星めぐりの歌」変奏曲のピアノ演奏もあり、至福の時を

過ごさせて頂きました。

定期演奏会の第2部では青梅マラソン賛歌でもありますが合唱曲「走れ青い風」が演奏され、会場の地元の方と思われる多くの聴衆が、馴染みの曲に頭で調子を取りながら楽しんでいました。



又、第3部は及川慎さんの姪のソプラノ歌手及川睦子さんを迎えての「サウンドオブミュージック」の演奏でした。ナレーターが物語のあらすじを紹介し、ドレミの歌やエーデルワイスなどお馴染みの曲を楽しみました。及川睦子さんはサウンドオブミュージックのマリア役は初めてだったそうですが、さすがに素晴らしい歌声でクラシックの本格的な歌手によるマリアも最高に楽しめることを実感させてくれました。

(編集部)

《はなまき あれこれ》

花巻市令和3年度決算と主な事業

昨年9月の定例議会で令和3年度の決算が承認されましたので、決算の概要と財政状況及び主な事業についてお知らせします。

一般会計は令和3年度の歳入が587億3,327万円、歳出が559億7,737万円で、27億5,590万円の黒字となりました。歳入は昨年度に比べて市税は1.8%減少、寄付金や地方交付税は増額していますが、歳入全体では-8.5%、54億5,840万円の減少でした。歳出では、義務的経費が扶助費の増加で10.2%増加、一方投資的経費では普通建設事業費が13.0%減少し、歳出全体は-10.6%、66億2,553万円の減少でした。

令和3年度の主な事業としては、しごと分野では

道の駅石鳥谷施設再編事業、産業団地整備事業、暮らし分野では花巻スマートインターチェンジ整備事業など、人づくり分野では学童クラブ支援事業、保育施設環境整備支援事業など、地域づくり分野では定住促進事業、婚活支援団体育成事業など、がありました。

市の財政状況については、指標の財政健全化判断比率も資金不足比率も問題なく、財政状態は健全であると言えるとのこと。又、一般会計の基金(貯金)についても令和3年度末現在高は昨年度に比べて13億円増の154億円、地方債(借金)の令和3年度末現在高は昨年度と比べ24億円減少し937億円となっています。(広報はなまき10/1号より)

令和3年度イーハトーブ花巻応援寄付金について

市は、ふるさと納税制度を活用しイーハトーブ花巻応援寄付金を受け付けていますが、令和3年度の活用内容について報告します。

令和3年度は、全国の皆さんから約32万件、43億9,240万円の寄付を頂いたとのこと。又、7つの使い道から希望するものを選んで寄付をしてもらっていますが、多いのは「自然豊かな地域とともに支え、誰もが安心して、いきいきと快適に暮らすまちづくり」に約9億5,529万円(21.7%)、「すべての市民が手と心をつなぐ、個性あふれるまちづくり」に約9億2,859万円(21.1%)、「郷土を愛し、丈夫な体と深い知性を持つ心豊かな市民が育つまちづくり」に約7億8,807万円(17.9%)、それに「市長におまかせ」に約16億1,933万円(36.9%)が主なところ

です。

寄付金の使い道ですが、令和3年度は合計で73の事業に活用しているとのこと。自動操舵システムや農業用ドローンなどスマート農業機械導入支援、公園の整備や道路の維持補修、保育士確保に向けた家賃や奨学金返済にたいする支援、コミュニティ会議への地域づくり交付金、などに活用されました。市長におまかせでは、第3子以降の保育料軽減への支援や、子育て世帯の住宅取得奨励金に活用されました。

(広報はなまき8/1号より)



公園整備事業

市民アンケートで60%以上が花巻市は住みやすい!

市は、令和6年度から始まる第2次花巻市まちづくり総合計画策定作業の一環として昨年6月~7月市民意識アンケート調査を実施、その結果を簡単にお知らせします。

調査は、18歳以上の市民の中から無作為に抽出した2,500人を対象に郵送及びネットにより実施、859人から回答がありました。回答者の性別は男性44.0%、女性50.8%、無回答4.4%。又、設問は10問37項目の調査でした。

まず、「あなたは、花巻市を住みやすいまちだと思いますか」への回答は、「住みやすいと思う」が60.7%、「住みやすいとは思わない」が10.4%、「どちらともいえない」が26.4%でした。「花巻市の政

策についてどの程度満足していますか(21項目に回答)」では、「防災危機管理体制の充実」が満足度が最も高く44.1%、不満が9.6%、「生活基盤の充実」は満足35.1%、不満27.2%。「環境の保全」は満足が34.4%、不満が13.3%。満足度の低いには「商業の振興」で満足8.7%、不満53.5%、「雇用環境の充実」も満足度が低く9.0%、不満が53.5%でした。子育てについての回答では「出産の環境づくりや子育て支援体制の強化」が多く、若い世代に魅力的まちになるためには「まちなか再生と生活基盤の整備」や「保育・教育環境の充実」さらには「産業の振興」が重要と回答しています。(広報はなまき10/16号より)

「JAいわて花巻」各地域で「収穫感謝祭」開催



JAいわて花巻は昨年10月に花巻、北上、遠野の各地域で秋のふれあいイベント「収穫感謝祭」を開催、3年ぶりの開催となった今回は多くの来場者が訪れ、会場は大いに盛り上がりました。

花巻では、10月15日(土)、野田のJAいわて花巻本社や

母ちゃんハウス「だあすこ」駐車場に特設された広場などで開催。旬の野菜や果物の詰め放題や「全国うまいもん市」も開かれ、多くの来場者が生産者と交流を深めました。

特設広場には、農産物や特産品の販売ブースの他、ミニゲームの出店なども並び、JAのオリジナルキャラクター「ピーやん」も駆け付け子供達とふれあいました。(「ぼらーの花巻」11月号より)

花巻まつりと大迫あんどんまつり3年振りに開催

去年の9月11日と12日、3日間が恒例だった花巻まつりが2日間に規模を縮小して3年ぶりに開催されました。8台の風流山車のパレードや花巻ばやし踊り、神楽権現舞と鹿踊パレードは感染対策を徹底して実施されましたが、約120基の神輿パレードは感染対策が難しく見送りとなりました。ただ、特産品フェアの会場に神輿が展示されお祭り気分を盛り上げていました。

今年は花巻開町430年の節目のまつりとなり、開町400年を記念して製作された山車の化粧直しや花巻まつり記念カレンダーの制作、花巻まつりばやしの音源の新たな収録などが記念行事として行われま

した。

一方、大迫のあんどんまつりも去年8月14日、15日の2日間、3年ぶりに開催されました。このまつりは、およそ200年の歴史を持つお盆の伝統行事。江戸時代に大飢饉で餓死した人々を供養するために始まったとされますが、今年も武者絵や歌舞伎の題材、先祖供養の仏画などが描かれた4台の山車が町内を練り歩き、観客を楽しませました。(岩手日日新聞、広報はなまき9/1号より)



賢治祭とイーハトーブフェスティバルも3年振りに開催

去年9月21日、毎年宮澤賢治の命日に開催されて来た恒例の賢治祭が、新型コロナの感染のための2年の中止を経て3年振りに開催されました。ただし、会場は例年の桜町の「雨ニモマケズ」詩碑前から若葉町の花巻市文化会館に変更、時間も15時～17時に変更されての開催となりました。

会場では、小学生の「雨ニモマケズ」の朗読、上田市長から歓迎の言葉などがあり、その後林風舎の宮澤和樹さんの講話「羅須地人協会」、花巻南高の演劇部による「鷹作・銀河鉄道の夜」、鹿踊の演舞などがあり、最後は「精神歌」を全員で歌って散会となりました。

一方、2013年からスタートした「イーハトーブフェスティバル」も去年9月27日、28日、3年ぶ

りに宮澤賢治童話村で開催されました。このフェスティバルは、スタジオジブリの故高畑勲監督の協力のもと、クリエイターやアーティストのゲストを迎えトークやライブ、朗読や演劇などのパフォーマンスや映像作品を楽しむイベント。今年は、残念ながらライブの出演は無く、野外ステージの大型スクリーンでの映像の鑑賞となりましたが、27日はわらび座のミュージカル「銀河鉄道の夜」や舞楽詩「風の又三郎」、蓮沼執太構成出演によるコンサート「宮澤賢治トラヴィデブラ」など、28日は花巻農高の鹿踊、原摩利彦作曲・構成による「100年後のコンサート」などを参加者は楽しんでいました。(宮澤賢治記念会ホームページ、広報はなまき8/15号などより)

第32回宮澤賢治賞・イーハトーブ賞の受賞者が決定

今回も、厳正な審査の結果、宮澤賢治賞に1名、宮澤賢治賞奨励賞に1団体、イーハトーブ賞に1団体、イーハトーブ賞奨励賞に1団体が決まりました。

宮澤賢治賞は、宮澤賢治の思想と事績、表現に関して綿密に調査し、誠実に考察した論稿を2021年に「宮澤賢治探求」上下二巻に集成した、栗原敦さんが受賞。賢治研究が多様に生まれ続ける中、実証と思索の統合が重要であることを示した業績が評価された。

イーハトーブ賞は、宮澤賢治生前の1929年に人形劇団を創設し、1948年の再第一作に「オッペルと象」を公演した、人形劇団ブークが受賞。長編人形映画「ゼロ弾きのゴーシュ」を制作し、節目ごとに「オッペルと象」を再演してきた営為が評価されました。

宮澤賢治賞奨励賞には、東日本大震災から各地で上演した朗読劇「銀河鉄道の夜」を2021年に改訂し、無観客野外朗読劇「映像作品『コロナ時代の銀河』」としてYouTubeで無料配信した、朗読劇「銀河鉄道の夜」制作チームと監督・河合宏樹さん。

イーハトーブ賞奨励賞は、宮澤賢治が盛岡高等農林学校時代に参加した「アザリア」の同人13人の交流を2015年から紹介してきた、アザリア奇譚部に贈られました。(広報はなまき9/1号より)



栗原 敦さん

「花巻おもちゃ美術館」オープンから3年目へ

花巻の中心市街地のメインスポットであるマルカンビルの2階にある「花巻おもちゃ美術館」は、今年3年目を迎えますが、地元のお客様を中心に多くの家族連れでにぎわっています。

内装やおもちゃに使われている木材の多くは花巻をはじめ県内で育ったもので、同美術館を運営する小友木材店や市内を中心とした県内の職人によって加工されています。同美術館の中には、マルカンビルの大食堂を再現したエリアも設置、おもちゃで人気メニューを制作することもでき、子供だけでなく大人も楽しむことが出来ます。

たくさんのおもちゃと遊びを通じて多くのお客様

を惹きつける同美術館。マルカンビルを含む花巻市の中心市街地の活性化にも寄与するほか、「おもちゃ」と「遊び」で花巻の文化と豊富な自然を伝える体験型木育施設になっています。

所在地 花巻市上町6-2 マルカンビル2階

開館時間 10:00～16:00

休館日 水曜日と年末年始

問い合わせ 080-9257-7987

(広報はなまき10/15号より)





〈賢治さんの思い出シリーズ 第五回〉

宮沢賢治さんと
母伊藤ハギノの交流について



岡本紀代子
(南城中38年卒)

私の実家伊藤家は、桜町4丁目にある6代続いている旧家ですが、母ハギノは18才の時笹間から嫁いできました。父が郵便局に勤めていたため、母は男3人女5人を育てながら畑仕事も一手に引き受けていたようです。農業を通じての賢治さんとの交流は、何物にも代え難い宝物だったろうと思います。

さて、母にとつて賢治さんは「近所の人」で、賢治さんが存命中に詩を書く人とか、童話作家と

か、農学者、花巻農学校の先生など、または多方面に渡り豊富な知識を持つ人とは知る由もありませんでした。また没後沢山の作品が世に発表され、世界的にも有名な人とも思っていなかったようです。母は字も読めず書くことも出来ないの

か、農学者、花巻農学校の先生など、または多方面に渡り豊富な知識を持つ人とは知る由もありませんでした。また没後沢山の作品が世に発表され、世界的にも有名な人とも思っていなかったようです。母は字も読めず書くことも出来ないの

か、農学者、花巻農学校の先生など、または多方面に渡り豊富な知識を持つ人とは知る由もありませんでした。また没後沢山の作品が世に発表され、世界的にも有名な人とも思っていなかったようです。母は字も読めず書くことも出来ないの

か、農学者、花巻農学校の先生など、または多方面に渡り豊富な知識を持つ人とは知る由もありませんでした。また没後沢山の作品が世に発表され、世界的にも有名な人とも思っていなかったようです。母は字も読めず書くことも出来ないの

か、農学者、花巻農学校の先生など、または多方面に渡り豊富な知識を持つ人とは知る由もありませんでした。また没後沢山の作品が世に発表され、世界的にも有名な人とも思っていなかったようです。母は字も読めず書くことも出来ないの



〈宮沢賢治 思索の石〉



羅須地人協会

チ)八(八七)、
おいてもね 行きたし
私の羽織を質におく さのさ

指導のお礼に母は近所の人達と交代でおにぎりや煮付けを差し入れた。賢治さんはそれをホウの葉を皿代わりにして石の上で食べた。差し入れが度重なりと近所の人達から言われた。肺病はうつるから近づかないほうがいいと。近所の人達は一人去り、二人去り、近づかなくなった。母は肺病なんかうつらないから大丈夫と言って、別宅のほうにも差し入れを続けた。賢治さんは喜んで食べてくれた。夏場は食べきれない物は、井戸につるしている筈に入れて保存し、までに(残すことなく丁寧)に食べさるごと・花巻弁)食べれていた。絶対に食べ物は粗末にしない人だった。賢治

さんの実家からの差し入れはあまり好まなかった。この話をする時の母はうす笑いを浮かべていた。賢治さんの方から差し入れのお礼をしたいと言われたので、義理の弟達に勉強を教えて欲しいと言った。母は賢治さんを兄さんと呼んで親身になつて世話をした。

賢治さんとの交流は花巻農学校を退職した三十歳から三三歳まで、過労と栄養不足で身体が衰弱し肋膜炎になり、その後実家に戻るまでの三年間だった。

母は一九才で嫁ぎ右も左も分からない地で、慣れないことをして行かなければならない身にとつて賢治さんは人生の師だったと思います。

※宮澤賢治晩年の年譜

- ・一九二六年(大正十五年)三十歳 羅須地人協会を設立する
- 花巻及び近郊の農村に肥料設計事務所を設け、無料相談をし、農村を巡回し、指導して歩いた
- ・一九二七年(三二歳) 菊、タリア、トマト、白菜等を自らリヤカーを引き町内に配給する
- ・一九二八年(三三歳) 東奔西走して指導して歩いた。やがて漸次身体衰弱していく
- 「宮沢賢治素顔のわが友、佐藤隆房の息子、佐藤進善」より

※岩手日日新聞 平成十二年(2000) 9月19日

の記事には、「宮澤賢治思案の石復元―北上川川岸― 県造園組合花巻分会結成25周年で贈る」花巻市外台の北上川川岸にある宮澤賢治自耕の地「下の畑」に、賢治が農作業の傍ら思索にふけつたという石が「復元」された。区画整理でなくなった本物に代り、県造園組合花巻分会(小原昭男会長)が結成25周年を記念して贈つたもの。かつて、その石に座つて野菜作りを教つた地元女性性は「賢治さんと話をしたり、歌をうたつた思い出の石」と懐かしんでいる。」とあり、伊藤ハギノさんの写真とハギノさんと賢治の交流の様子が記されている。

「イーハトーブの風をもらつて ―谷口秀子先生を偲んで―」開催

会長 瀬川 紘一

一昨年の11月に亡くなられた谷口秀子さんが主宰していた「べんべる朗読会」の教え子の有志5名が、昨年11月16日(水)谷口先生を偲ぶ朗読会「イーハトーブの風をもらつて」を月島区民館で開催しました。

第一部の朗読は14時開始、5人による朗読で「永訣の朝」(須藤美智子さん)、「薙露青」(三上和子さん)、「雨二モマケス」(小久保美津子さん)、「稲作挿話」(米山誠子さん)、「注文の多い料理店(序)」(佐々木まりさん)、次に「なめとこ山の熊」を5人が順番に繋いで朗読しました。

5人はそれぞれ朗読前に自己紹介をされましたが、在京花巻人協会員の須藤美智子さんは花巻出身ですが、ほかの4人は関東や関西の出身とのこと、花巻弁への取組は大変なのではないかと想像しました。

そして一部の最後にはオカリナの伴奏で「星めぐりの歌」と「精神歌」を参加者全員で合唱しました。

第二部は、谷口秀子先生



のCDから賢治の「紫紺染めについて」の朗読を聞きました。さすがに素晴らしい朗読でしたが、同時に久しぶりに懐かしいお声に接し胸に迫るものがありました。

べんべるの会は、平成10年秋に月島区民センターで中央区の区民講座として谷口先生の朗読講座「宮澤賢治を読む、語る、歌う」が開かれ、その後講座に参加した有志により平成11年春に自主講座として発足した会です。以来20年余り谷口先生のご指導を受け90回ほど朗読会を開催して来ましたが3年前にコロナで休止して一昨年谷口先生がご逝去されてしまいました。今回、有志の間で何とか会を再開したいとの気持ちが高まり実現に至つたとのこと。

※「べんべる(べむべる)」は花巻弁でネコヤナギのつぼみのふわふわしたところ。

今回は来年の11月15日(水)14時、同じ会場でのご案内があります。ただ、今でも毎月第二四水曜日に月島区民館で勉強会をやつていくので、来年11月まで待たず5〜6月あたりにもう一回開催したらどうですかと提案させて頂きました。在京花巻人会として是非このべんべるの会を、会員の皆さんと応援していきたいと思ひますので、よろしくお願ひ致します。

「ちゃんこ料理勝盛家」松田さんの葵相撲道場が大迫合宿

大迫町内川目出身の元幕内若ノ海のご子息、伊勢ノ海部屋の元幕下「勝盛」の松田一隆さんが川崎で「ちゃんこ料理勝盛家」を開いていることは、既に会報2021年6月号で紹介しました。又、会報の昨年6月号では、お店が川崎市役所に隣接したパレールイエロー館1階に移転したことも伝えました。

さて、この松田さんは横須賀市の大津公園相撲場の「葵相撲道場」で小中学生に相撲の指導をしていますが、昨年夏に小学生9人中学生1人合計10人の子供達と大迫で合宿を行ったとのこと。以下は、松田さんからの報告です。

大迫での合宿を計画したきっかけには、やはり新型コロナウイルス禍があったとのこと。ほぼ2年間ステイホームを強いられた子供たちに思いっきり稽古し遊べる機会を作りたいと考えていたところ、子供達が松田さんの故郷に一度行ってみたいと言ってくれたことで大迫合宿に踏み切ったそうです。

合宿は昨年の7月25日からの二泊三日、宿泊は大迫の名刹桂林寺でしたが、松田さんの父親の故若ノ海の菩提寺でもあります。土俵は、桂林寺のふもとの草むらを地元の佐々木さんに除草整地してもらった手作り、大迫の清々しい空気と青空の元で稽古に励み

ました。稽古の合間には、子供たちが故若ノ海のお墓を掃除し相撲が強くなるようお参りしました。

又、子供たちは稽古が終わった後、様々な体験を楽しみました。川での魚の掴み取りやスイカ割りなど、夜には花火を楽しみました。又、松田さんのいとこがおられる遠野のふるさと村を訪ね、陶芸など様々な体験に取り組みました。地元の方々の協力もあり、子供たちは本当に充実した時間を過ごすことが出来たとのこと。

最後に松田さんは、子供たちが本当に良い思い出が出来た、もう一度行きたいと言っていたと満足そうでした。又、稽古の方も成果が上がり、二人の小学生がわんぱく相撲の全国大会に神奈川県代表で出場することになったと誇らしげでした。(編集部)



告知

在京花巻ふるさと会連絡事務所移転のお知らせ

在京花巻ふるさと会(在京花巻人会・在京石鳥谷町人会・在京東和町人会)の連絡事務所が昨年12月1日から左記に移転しました。

住所 東京都中央区東日本橋3-5-9 市川ビル3階
TEL 03(66661)1925
FAX 03(66661)1926

照井だんご屋さん閉店

花巻市の大通りにある照井だんご屋さんが2022年12月29日をもって閉店しました。新型コロナウイルスでしばらく花巻に帰れなかった方もいると思うので、旧聞になりますがお知らせします。お茶もちや経木だんご(つけぎだんご)が絶品で花巻では知らない人はいないお店でした。花巻に帰る度にお団子を楽しんだ方も多いと思いますが残念です。なお、照井だんご屋さんは、かつては大正活版所だったところ。「銀河鉄道の夜」に出てくる活版所のモデルであり、宮澤賢治が自費出版した心象スケッチ「春と修羅」が印刷されたところです。



「銀河鉄道の父」が映画化、GWに公開

2017年下期の直木賞を受賞した門井慶喜氏の小説「銀河鉄道の父」が映画化され今年のゴールデングローブに公開される予定です。父政次郎と息子賢治の葛藤と愛を描いたこの小説は、6年越しで映画化が企画されましたが、ついに一昨年末にクラクイン、6月には花巻市で撮影も行われ製作は順調に進んでいるようです。監督は成島出、賢治役を菅田将暉、そして父政二郎役を役所広司、トシ役を森七菜が演じています。

会費納入のお願いと収入状況の報告

①令和4年度会費納入のお願い

在京花巻人会の運営にご協力を賜りありがとうございます。花巻人は会員の皆様からの会費で運営させて頂いております。

会費は「花巻人のつどい」[年3回の会報の発行]に使用させて頂いています。4年度の会費2,890円(2,890円プラス加算金110円、合計3,000円)をまだお振込み頂いていない方は、6月1日付の会報66号を郵送の際に同封の振込票(手数料不要)で最寄りの郵便局より下記の口座にお振込み頂きますようお願いいたします。在京花巻人会会長 瀬川紘一

口座名義 在京花巻人会
口座記号番号 00240-6-111794

②令和4年度の会費納入のお礼と納入状況

4年度の会費納入は11月末現在230件664,700円です。会員皆様のご理解とご協力に感謝とお礼を申し上げます。

会計担当 高橋良光、板垣雅子

《訃報》

昨年、在京花巻人会の理事を長年務めておられた小池菰子さんと松田文男さんが続けてお亡くなりになりました。誠に悲しく残念ですが、長年のご協力に感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈り致します。

小池菰子さん

ここ数年体調を崩されておりましたが、昨年9月1日に逝去されました。享年82歳でした。会報の編集や様々なイベントの裏方をさせて頂きましたが、何と云っても在京花巻人会理事の精神的なバックボーンとして会を支えてくれました。感謝です。

松田文男さん

3年前に大きな手術をし、やはり大きな手術をした奥様と施設に入居し穏やかな日々を過ごしておられました。昨年10月7日に突然の心不全でお亡くなりになりました。享年82歳でした。「つどい」でのウエルカムミュージックの演奏がまだ耳に残っていますが、彼のいない理事会は本当に寂しくなりました。合掌。